

AGING IN PLACEの実現を目指す 新たな長寿社会のまちづくり

第1. なぜ高齢者の生きがい就労に 取り組んだのか？ 柏プロジェクト(プラン2)

長寿社会が到来しているいまこそ、高齢者たちが、地域における新たなまちづくりに関わる時、地域が変わり、社会が変わり、世界が変わることに繋がっていきます。

そのわけは、現代の高齢者のもつ知識と技術、豊かな経験と確かな判断力は、地域社会のなかでこそ、生きる考えたからです。



理由その①

65歳以上は高齢者なのか？

1956年に国連の年次報告書に初めて記載された

＜その当時の平均寿命＞

1955年 男性63.6歳 女性67.8歳

＜現在の平均寿命＞

2010年 男性79.4歳 女性86.4歳

増加数 男性15.8歳 女性18.6歳

増加率 1.25倍 1.28倍

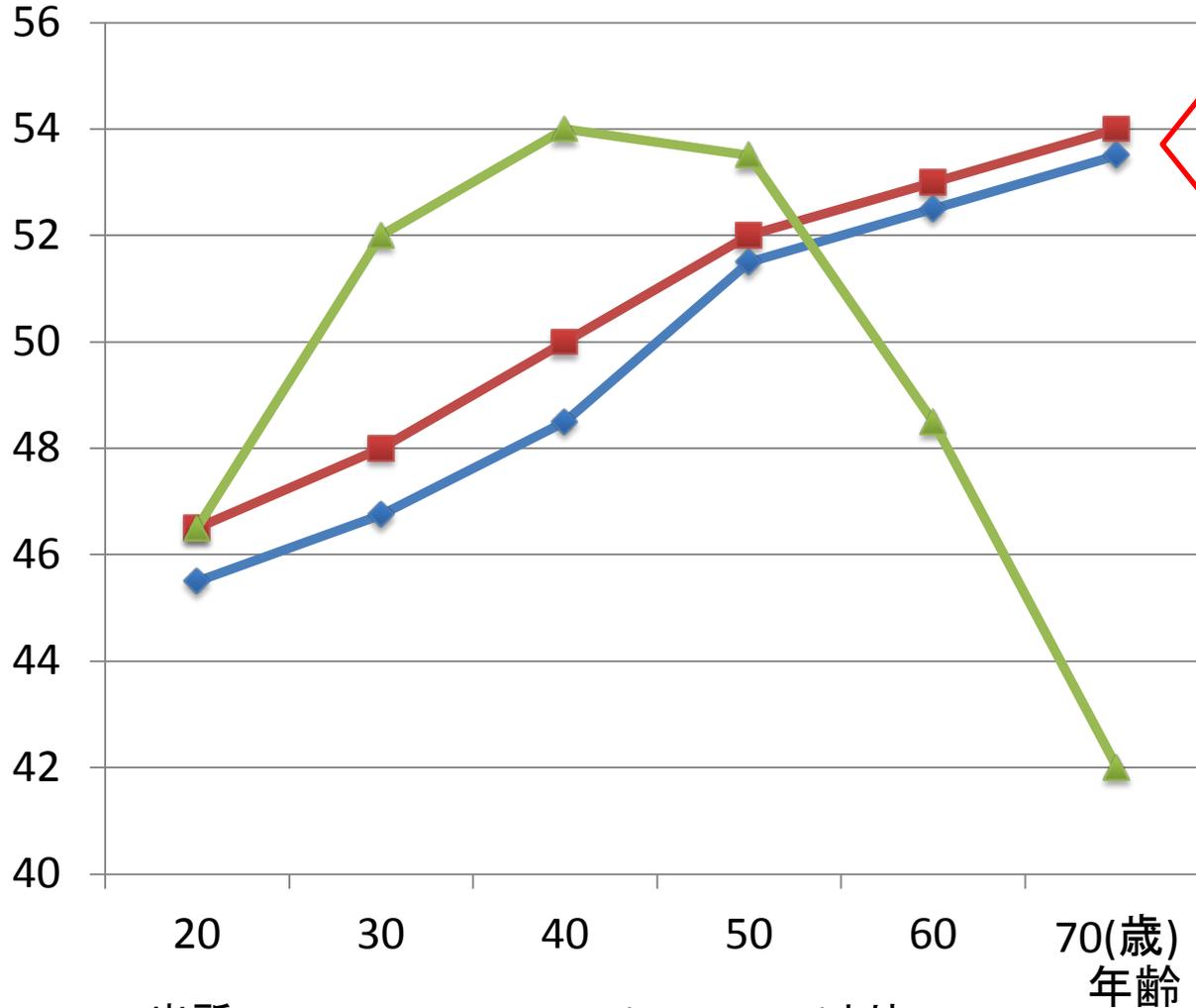


65歳×1.27倍＝

82.3歳

理由その②. 認知能力の年齢による変化を見る

能力得点



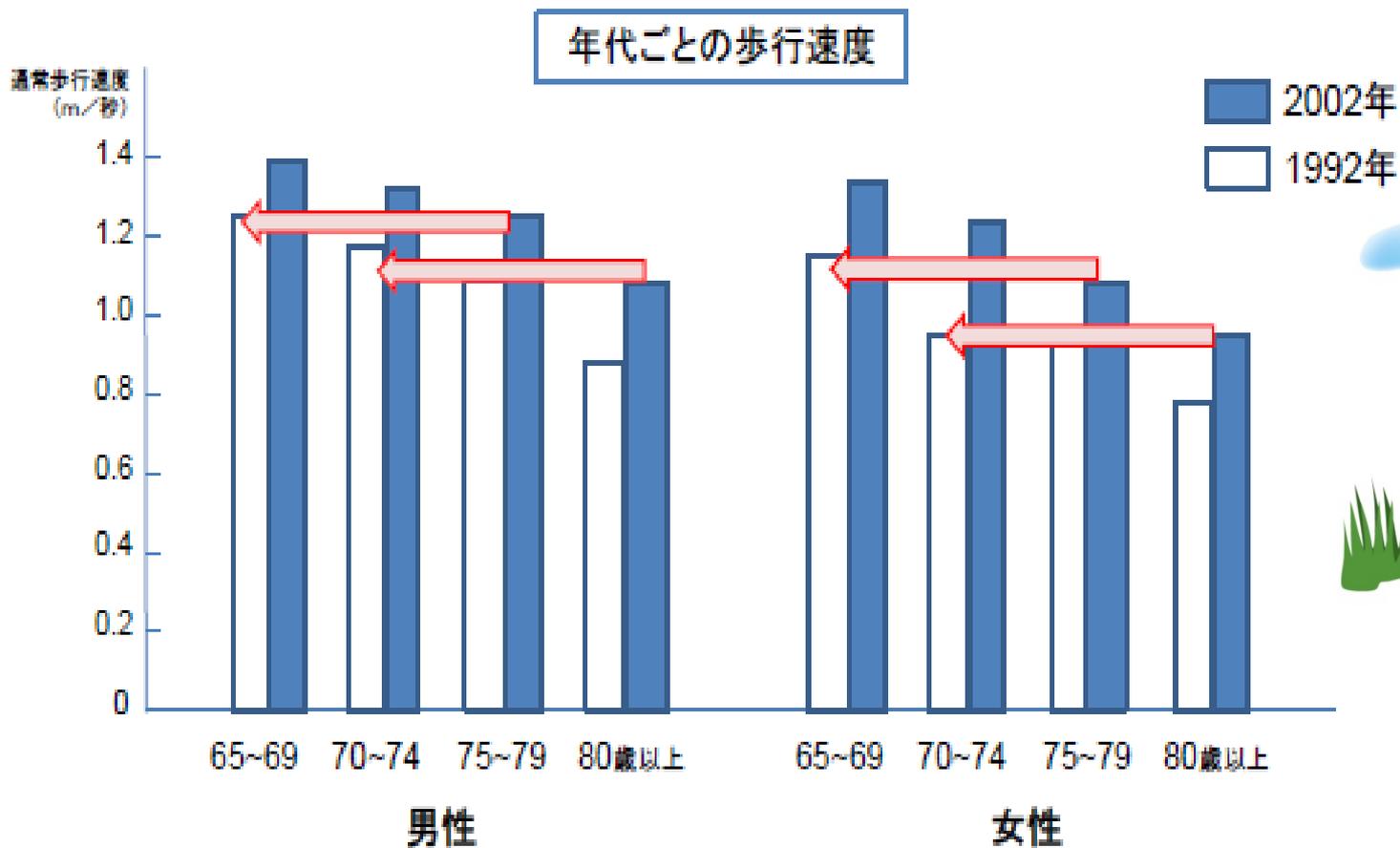
- ◆ 日常問題解決能力
- 言語（語彙）能力
- ▲ 短期記憶能力

出所: Cornelius and Caspi (1987, p150)より



理由その③. しかも、高齢者は若返っている！

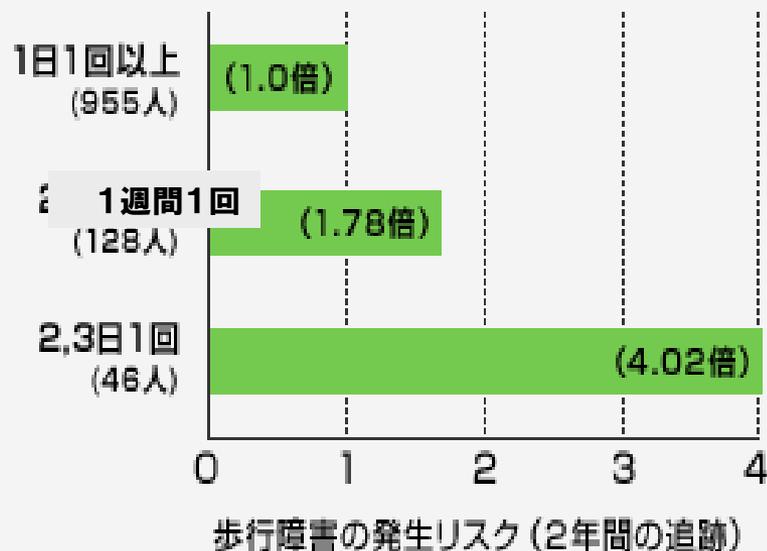
高齢者の通常歩行速度を比べてみると、男女ともに**11歳**若返っている！（ex.今の75歳は昔の64歳！）



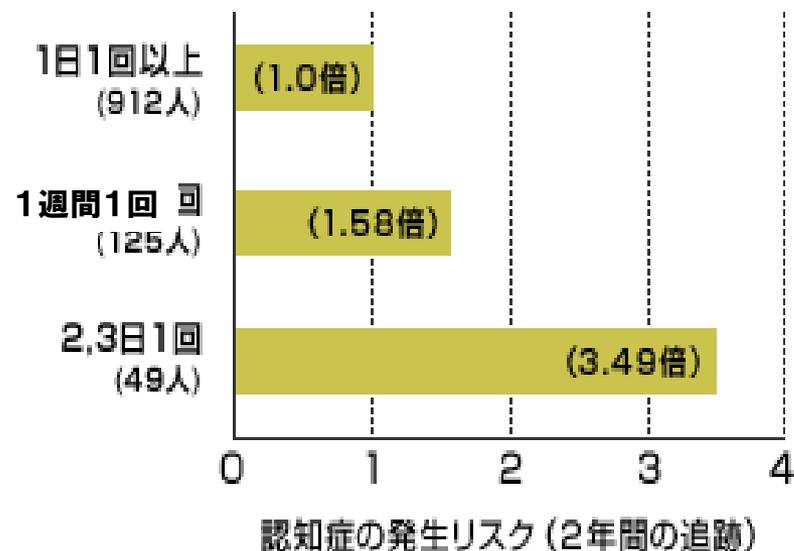
理由その④. 外出機会と健康との関係は深い

外出することは、健康予防、認知症予防にも効果あり！

● 外出頻度と歩行障害の発生リスク



● 外出頻度と認知症の発生リスク



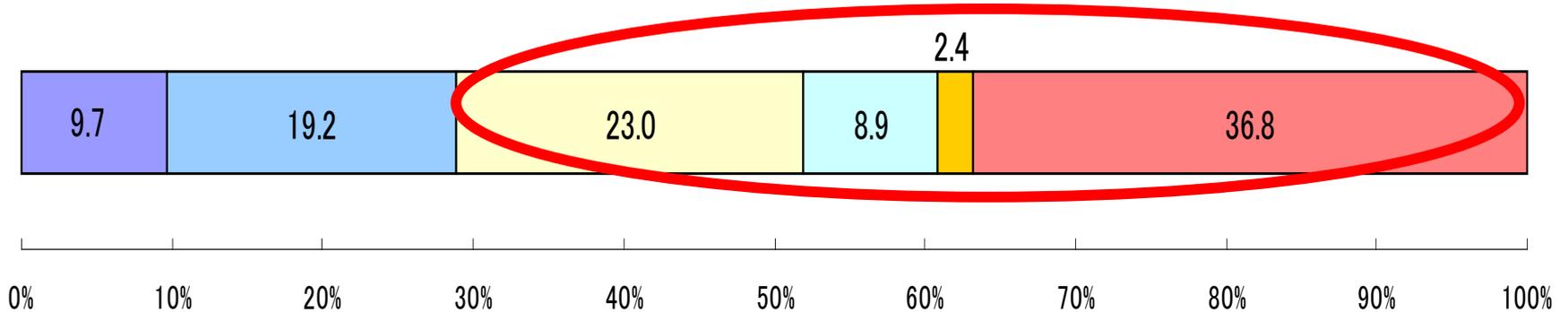
新潟県Y市で65歳以上の高齢者を対象に2001年から2年間追跡調査した結果

※両グラフとも、もともとの健康状態や社会的役割の差による影響を除いて比較

(資料) 財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所[第93・95回老年会公開講座 第三のキーワード!]より

理由その⑤. 約7割の高齢者は 70歳まで働きたいと思っている

■ 60歳ぐらまで
 ■ 65歳ぐらまで
 ■ 70歳ぐらまで
 ■ 75歳ぐらまで
 ■ 76歳以上
 ■ 働けるうちはいつまでも



資料: 平成20年高齢者の地域社会への参加に関する意識調査(内閣府)

柏の高齢者は？…リタイア後も働きたい人が多い

＜高齢者の就労に対する意識調査から＞

調査項目	内閣府	柏65歳以上	柏55～64歳
65歳までに働くことをやめる	29%		39%
70歳までは働きたい	23%	13%	30%
75歳までは働きたい	10%	29%	3%
働けるうちはいつまでも働く	37%	41%	15%

なんと
83%



平成22年12月調査: 65歳以上一般高齢者787人(男性458人 女性413人が回答) 55～64歳253人(男性123人 女性129人が回答)

理由その⑥. 地域に戻ってきた団塊世代は？

千葉都民？とまで言われたサラリーマンが多く住む“柏市”

自由を手にしたものの、
何をしようか・・・

地域の集まりは
行きづらいなあ

活躍できる場がない、
参加したいところがない

TVばかり見てしまう。時
間を持て余すちゃうなあ



リタイアしたがやること**がない**、行くところ**がない**、
会いたい人**がない**

出典：「第4期柏市高齢者いきいきプラン21策定のためのアンケート」及びヒアリングより（柏市,2008）

団塊世代の多くは**地域とのつながりが薄い**
自治会等の既存の場所・活動は**敷居が高く感じている**。



自宅に引きこもってしまう可能性大！！

第2. 高齢者が生きがいをもって 活躍できるまちづくり



「働く」+「生きがい」=生きがい就労
「やりがい」+「役立ち」=役立ちがい

- 1 新たなライフスタイルをつくる
- 2 人と人を結びつける役割を果たす
- 3 ニュー・コミュニティの創造
- 4 セカンドライフを豊かにする活動
- 5 無理なく、楽しく、出来る範囲
- 6 自分の役割や立場ができる
- 7 地域や社会に貢献できる



柏市内の農業や子育て分野で就労するシニアのみなさん



1. 生きがい就労を実現する事業 5分野8事業

柏プロジェクト・プラン2





農業
41名



農家作業の体験学習
↑ブルーベリー枝剪定
←トマトの栽培管理



2. セミナー修了から就労へ

61~80歳の235名が就労しています 平成26年9月現在



8回のセミナー

↑就労セミナーで熱心に講義を受けるシニア



介護施設
76名

↑iPadを使って介護施設の就労シフト表の作成



子育て支援
保育22名
学童46名

↑幼稚園の見学会



子どもたちに絵本の読み聞かせをするシニア

生活支援 14名



コミュニティ食堂

平成28年度
オープン予定

50名(予定)

セカンドライフの新しい働き方を考えてみませんか
就労セミナー-受講生募集

柏市豊四季台地域
高齢社会総合研究会

セカンドライフの新しい働き方を創造する

「セカンドライフの新しい働き方を考える、実践していきましょう。」
「大学では柏市、市役所と共同で長寿福祉に冠したまちづくりを推進し、実践してまいりました。その経験を活かして、柏市に定住してまいりたい方に、このセミナーで柏市に定住していただくための助けをさせていただきます。」

セミナー日時、内容
1回 11月11日(金) セカンドライフの就労のすすめ
2回 11月25日(金) 高齢者就労の現状
3回 12月 9日(金) 雇用する側から高齢者就労に求めること
4回 12月23日(金) セカンドライフの就労の新しいカタチ

第2 総合研修棟 2階 会議室

主催：東京大学高齢社会総合研究機構
学芸員補修員の一人、東京大学教授 秋山聡子

屋上農園/野菜工場



植物栽培ユニット 5名



平成25年
5月設置

3. これまでの進捗 (1) 都市型農業事業

【現在】 共同圃場での高齢者就農を継続＋研修用「農業塾」をスタート

(2010年度)

○農政課＋福祉政策室＋東大での企画調整。農業委員会での検討他

41名
就労
平成27年7月

(2011年度)

○担い手候補の若手農家グループと継続検討(家族農家の現状理解、営農支援の検討)

○若手農家7名(現在8名)によるLLP「**柏農えん**」を立ち上げ(2012/1)

(2012年度)

○LLPメンバー農家における高齢者の**体験農業**を継続実施。

同時に市内2カ所の休耕地を共同圃場として確保。ダイコン、キャベツなど栽培を開始

○販路拡大の取組みを継続



(2013年度)

○正規雇用者(シニア)についてメンバー農家の圃場及び**共同圃場における就農**を継続

○能力・スキルが未達のシニアについては「**農業塾**」での研修へ移行

○地元での販路拡大を模索(地元企業への協力取り付け)



3. これまでの進捗(2) ミニ野菜工場事業

【現在】 植物栽培ユニット(2機)の設置。栽培を試行スタート

5名
就労

平成27年7月

(2010年度)

- ミニ野菜工場に関する情報収集、事業化に向けた検討(千葉大との検討)
- 柏市内企業「三協フロンティア(株)」との協議を継続(⇒担い手として内諾)

(2011年度)

- 東日本大震災の関係から「三協フロンティア(株)」が担い手から辞退
⇒担い手探し、構想を再検討

(2012年度)

- 大和ハウス工業(株)から、
新製品「agri-cube」(2機)の寄贈を実現
⇒**団地内空きスペースに設置(2013/3)**
- ※2018年度以降は、団地建替後の新たな
場所に移設予定

(2013年度)

- 就労シニア(5名)による**栽培を試行開始**
※2013/5/31「お披露目会」を実施



3. これまでの進捗 (3) 屋上農園 & コミュニティ食堂

【現在】 団地内商業区の建替え後の設置に向けて計画策定⇒事業者決定

(2010-11年度)

- 建替え後の商業区のイメージ・コンセプト・機能について内部検討を継続
- 複数の事業者へのヒアリングを実施

(2012年度)

- 地域住民の健康に貢献、多世代交流できる場としての構想を詰める
⇒構想の中に「**地域のレストラン**」となる

<内部検討段階での構想・イメージ>

コミュニティ食堂他を組み込み

- 地元の既存事業者、住民へのヒアリングを継続実施

- 公募要領の検討、作成

(2013年度)

- 公募**を実施

2014年3月事業者決定

(2014年度)

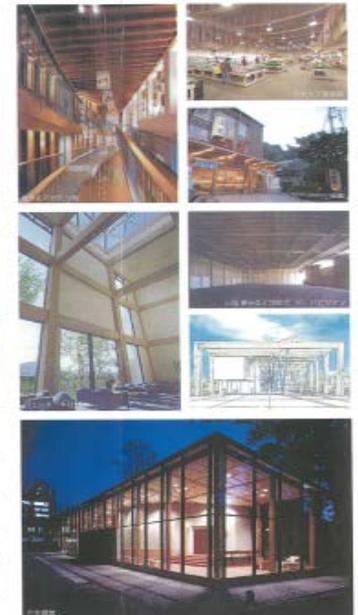
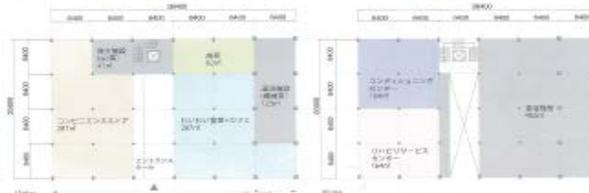
- 事業内容確定

(2015年度)

- 2018年3月オープン予定



シニア50名
就労予定



3. これまでの進捗 (4) 保育・子育て支援事業

【現在】 保育士の周辺業務部分で高齢者が活躍中

(2010年度)

- 柏市内の子育て事情の情報収集
- 担い手となる事業者を公募⇒採択

(2011年度～)

- 就労シニアは「**まちの先生**」として、主に以下の業務を担当
 - ・ 早朝7時半からの園児受け入れ、保育補助
 - ・ 園児の午睡の準備と導入、見守り補助
 - ・ 夕方5時までの保育補助、降園時の親御さんへの引渡し
 - ・ 読み聞かせ、折り紙、お手玉、百人一首など伝承あそびの実践 他

＜「読み聞かせ」の様様＞



22名
就労
平成27年7月

3. これまでの進捗 (5) 学童保育事業

【現在】シニアとしての区別なく、「学童+塾」経営を支える講師として活躍中

＜英対話を教える（上）・英語あそび（下）をする高齢者＞

(2010年度)

- 学童事業に関する情報収集
- 事業の担い手探し⇒選定

(2011年度)

- 事業者と事業構想に関する検討を継続
- 豊四季台地域内での新店舗開設に向けた準備・調整

- 学童と塾の機能を兼ね備えた“次世代型進学塾「**ネクスファ柏**」”を開設(2012/3/1)

(2012年度～)

- 就労シニアはこれまでの**経験・スキル**を活かす形で、「英対話」や「英語あそび」のプログラムを担当
- ・新たに「学校～塾～自宅」の送迎サービスもシニアが担当



46名
就労
平成27年7月

新・小3～中2生募集!
「次世代型進学塾」
ネクスファ NEXT
未来へのマナビ
さあ、扉をたたこう!
入学説明会
3/1(木) 12:00開校!
進学・就職ふたつの関門を突破する
「次世代のマナビ」
2/18(土)10:00～
2/19(日)13:00～

3. これまでの進捗 (6) 生活支援事業

【現在】 60代の元気シニアが老親高齢世代の生活を支援・活躍中

(2010年度)

- 生活支援サービスに関する情報収集
- 柏市内の既存サービス(社協等)との棲み分けを検討

○事業の担い手探し⇒選定

(2011年度～)

- 就労シニアは主に以下の業務を担当し活躍
⇒居室の**掃除・調理、通院介助、買物代行**他

<事業概要>

【生活支援】

掃除、洗濯、調理、散歩、服薬管理、傾聴サービス、安否確認・・・など

【生活充実】

緊急時の対応、入院中の身の回りのお世話、大掃除のお手伝い、外出介助(趣味サークル、美容院、お墓参りの付き添う等)・・・など



**14名
就労**
平成25年7月

サービス提供時間

7:00~21:00
(30分刻み)

年中無休

料金 (消費税込)

	生活支援(生活サポート)	身体介護	外出待機
30分	1,260円	2,420円	934円
60分	2,180円	4,220円	1,868円
90分	3,050円	6,130円	2,802円
120分	3,920円	7,000円	3,736円
150分	4,790円	7,870円	4,670円
180分	5,660円	8,740円	5,604円

※長時間のご利用や内容が複雑なサービス等は、ご相談ください。

たとえば、こんな時に

入院中・退院直後の
身の回りのお世話

入院・退院に伴う
ご自宅の環境整備

調理・掃除・買い物
などの家事支援全般

その他、お困りごとを
サポートします

3. これまでの進捗 (7) 福祉サービス事業

【現在】 介護士がケアに専念できるように、施設の周辺業務を就労シニアが担当

(2011年度～)

○初期計画にはなかった分野だが、豊四季台団地内に新設された高齢者介護施設「柏こひつじ園」において、主に次の業務を就労シニアが担当

- － **食事補助**や施設のバックヤード業務(洗濯、掃除他)
- － 施設が行う地域住民に向けた**カフェの接客**サービス
- － 施設周辺での**園芸業務**

○2013年度からは新たな特養でも就労シニアの活躍がスタート

76名
就労
平成27年7月



4. 就労セミナー開催から就労実現へ

1. 就労セミナー受講者の募集

- ・募集チラシのポスティング
- ・柏市広報への掲載依頼
- ・地域紙誌への掲載依頼



7. 就労

- ・高齢者と事業者との雇用契約
- ・ワークシェアリング ③ ジョブコーチ

2. 就労セミナーの実施<講義内容>

- ・セカンドライフの就労の進め
 - ・高齢者就労の現状
 - ・雇用者が高齢者に求めること
 - ・セカンドライフの就労の新しいかたち
- ◇就労内容に関するアンケート

6. 事業者による研修

- ・ワークシェアリング ② ジョブコーチ
- ・業務内容の指導

3. 心身機能の検査

- ・集団検査(身体・認知)
- ・個別認知機能検査
- ・健康チェックセンター検査



5. 事業者による面接

- ・業務の適性
- ・就労内容の希望

4. 事業別就労体験・見学会

- ・保育, 子育て
- ・学童保育
- ・介護施設
- ・農業
- ・生活支援
- ・ワークシェアリング ① ジョブコーチ

5.就労セミナー(4日間)のカリキュラム

日 時	講義テーマ・講師	主な内容
11月11日(金) 10:00~12:00	セカンドライフ就労のすすめ 東京大学IOG教授 秋山弘子	高齢社会に向けてセカンドライフで働く意義について学びます。
11月25日(金) 10:00~12:00	高齢者就労の現状 ①柏市シルバー人材センター ②日本雇用創出機構 ③セカンドライフの社会福祉制度	高齢者の職業斡旋や派遣など、我国や身近な地域における高齢者の実態について学びます
12月 9日(金) 10:00~12:00	雇用する側から高齢者に望むこと ①福祉施設事業者の立場から ②学習塾事業者の立場から ③農業経営者の立場から ④幼稚園・保育園の立場から ⑤生活支援事業者の立場から	生きがい就労の研究で高齢者を雇用する予定の事業者から、高齢者に望むことや雇用する条件などについて学びます。
12月23日(金) 10:00~12:00	セカンドライフ就労の新しいかたち 東京大学IOG特任研究員 矢富直美	高齢者のライフスタイルや能力に合った就労の在り方、就労研究の目指すことを学びます。

6. 特養ホームにおけるワークシェアリングの例

No	氏名	グループ	月	火	水	木	金	土	日
1	A	朝食補助1	◎	◎				◎	○
3	B	朝食補助1	○	○	○	◎	○	◎	
4	C	朝食補助1		◎	○	◎	○		◎
5	D	朝食補助1	○	○	◎	○	◎	○	○
8	E	朝食補助1	◎	○	◎		◎	◎	◎
11	F	朝食補助1	◎			○	○	○	
12	X	カフェ	○	○	○	◎	○		
13	Y	カフェ	◎	○	◎	○	○		
14	Z	カフェ	○	◎		○	◎		

<凡例> ◎…勤務日 ○…交代できる 無印…休暇

作図＝東京大学高齢社会研究機構：矢富直美2012. 12. 24

7. 見えてきた課題⇒高齢者の多様な就労ニーズへの対応

気付き・課題

○高齢者のセカンドライフにおける就労ニーズは極めて多様(=気付き・再確認)

⇒本人の就労ニーズ及び能力を見極めつつ、最適な活躍の場を提供し支援すること

求められる(=課題)

- 業務能力を判断するための評価(能力の上限を見極めるため)
- 継続して就労するために必要な支援(ジョブコーディネーターの必要性)
- ニーズに見合う最適な就労の場・環境の確保(新規開拓)等



単純労務的

専門的

時給	500円	800円	1000円	1500円以上
フルタイム 週5日 6時間～				
パートタイム 週3日～ 4時間～	プチタイム就労にはよりきめ細かなワークシェアリングが必要！これなら80歳まで働ける！？			
プチタイム 週2日,3日 2時間～4時 日	有償ボランティアのゆるい働き方	労務的な仕事のゆるい働き方	経験や技能、知識を活かしたゆるい働き方	
ボランティア				

お金重視

生きがい重視

高齢者のセカンドライフ就労ニーズ
セグメントイメージ

起業 ※様々なスタイルでの起業ニーズもあり(NPO、SOHO、ナノ・コーポ等)

8. 柏市での高齢者就労が報道される

買い物や参拝客のシニアでにぎわう東京・巣鴨。取材班は60歳以上の男女50人に「何歳まで働きたいか」尋ねてみた。

「まだ社会とつながっていたい」「孫の小遣いを稼ぎたくて」。平均年齢は73歳。65歳を超えても働きたい人や実際に働いた人は6割に上った。



働きたかた Next 老いに克つ

4人で正社員1人分



時間と体力、補い

日本で65歳以上の高齢者の時間も欲しい」。街頭調査では過半が短時間勤務を求めた。シニアの事情にどう応えるか。趣味の時間もあり、今が良いペース」。千葉 週3日、計8時間働く。同施設では、掃除や洗で組む。体調が悪いとき

こひつじ園」で働く新井裕子(72)は元公務員。シニア約40人が10間と体力を補い合い、「シニア4人で正社員1人分」働く仕組みを作った。補い合いは見知らぬシ

（埼玉県三郷市）の前田実(66)は開店前の朝7時から売り場に品物を補充する。勤務は10時まで。人手が集まらない時間帯に弁当を届け、見守りでは定着しない。時間、朝に強いシニアがもつ。「ありがたい」とも言う。シニアの多様なニーズはネットを通じ生産性が向上。今では全国約150店で前田のようなシニアが活躍する。



「もはや個々の店舗対応では無理だ」。コンビニ最大手のセブンイレブンはシニア雇用を本部署に切り替えた。福岡県や大阪府など協力。業務も見直し、最短2時間から働けるよう

「年齢は関係ない。市場の変化に合わせて働き方も変える」と強調する。東大特任教授の秋山弘子(72)は「シニア活用には1人の社員に何でも

抱えるシニアたち。だが強みを見極めればハンデはむしろ武器になる。ドン・キホーテ三郷店

電子版 巣鴨のシニア50人の本音 Web刊 | 紙面連動

日本経済新聞 2015年(平成27年)12月12日

ワークシェアリングの取組みを紹介→

9. 日常生活の活動量に変化が生まれている

3. 在宅状況について (どれか一つに○)

① 自宅から出なかった 2 少し出かけた 3 一日中外にいた

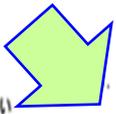
4. 今日、次のようなことをしましたか。(当てはまるものすべてに○)

1 働いた 2 地域の活動やボランティア活動などをした
 3 趣味・娯楽・稽古事をした 4 運動、スポーツをした
 5 友人や知人等とつきあい、交際、おしゃべりをした
 ⑥ 1～5のどれもしなかった

5. 「働いた」という方に何います。(今日働いていない人は、問6にお進みください)

(ア) だいたい何時～何時まで働きましたか・・・ 時 分～ 時 分

(イ) 仕事の具体的な内容は・・・



6. 今日、何か特別な行事や出来事がありましたらお書きください

1 自宅から出なかった ② 少し出かけた 3 一日中外にいた

4. 今日、次のようなことをしましたか。(当てはまるものすべてに○)

1 働いた 2 地域の活動やボランティア活動などをした
 3 趣味・娯楽・稽古事をした ④ 運動、スポーツをした
 5 友人や知人等とつきあい、交際、おしゃべりをした
 6 1～5のどれもしなかった



5. 「働いた」という方に何います。(今日働いていない人は、問6にお進みください)

(ア) だいたい何時～何時まで働きましたか・・・ 時 分～ 時 分

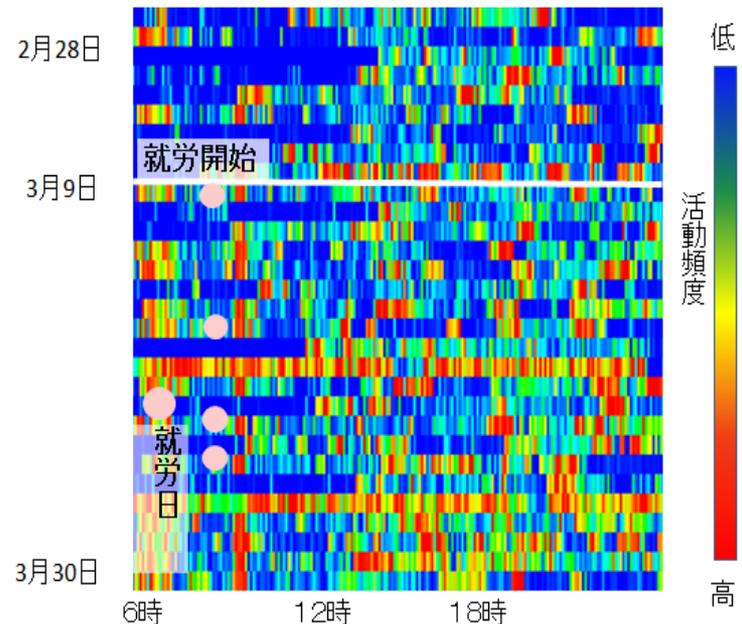
(イ) 仕事の具体的な内容は・・・

6. 今日、何か特別な行事や出来事がありましたらお書きください

・外出：自動車修理工場へ修理見送手帳。(10:00～11:30)
 ・外食(夕食)
 ・ゴルフ練習(14:30～17:00)

<例えば、代表的な1例の結果>

- 日記による記録において就労前には認められなかった「ゴルフや卓球などの**スポーツ活動**」が、就労開始後に増加した。
- 結果的に自宅からの**外出頻度が著明に増加**
- 活動量記録からも、就労日だけでなく、**それ以外の日においても活動量が増加する傾向にあることが確認できる**



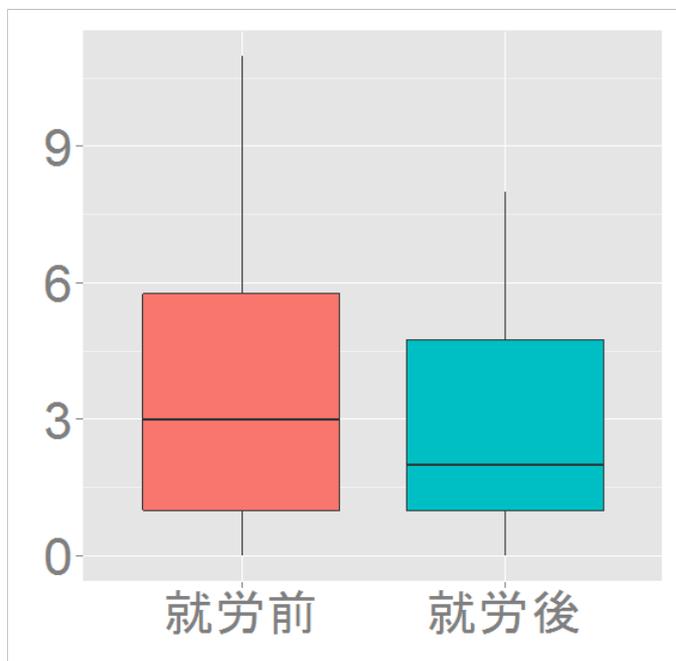
10. 精神的健康度の変化がみられる

■就労経験者の抑うつ度（GDSの合計得点）は、有意に低下する傾向が見られた

- ・うつ状態やうつ傾向と判定される人の人数も減少した



$n=38, t(37)=2.01, p=0.052$



	就労前	就労後
平均	3.42	2.71
標準偏差	2.80	2.08
うつ傾向 (5~9点)	12人	10人
うつ状態 (10点以上)	1人	0人

生きがい就労は日々のスパイスとなると同時に孤独感を和らげる可能性がある

11. セカンドライフの新しい働き方実施体制

行政(市町村)が事務局となり、市民団体や事業者を構成とする事業分野別のWGを設置して話し合いを進めることが必要。→ そのため、各WGと連動した就労セミナーを実施する。

(1) 農業WG

若手農業者を中心にWGを構成し、高齢者活用と農産物の販路拡大を議論と実施
農業事業者、千葉県農業改良普及所、千葉大、東京大学、農業委員会、行政(農政部門)、UR

(2) 高齢福祉WG

団地内の特養施設とWGを構成し、介護事業での高齢者の活用について議論と実施。
介護事業者、老人福祉施設協議会、東京大学、行政(高齢者支援関連部門)、UR

(3) 生活支援WG

生活支援サービスの開発と提供体制の試行実施と検証。
訪問介護事業者、社会福祉協議会、非営利団体連絡協議会、行政(福祉部門)、UR

(4) 保育・子育てWG

子育て支援サービスの検討と事業者の公募、選定に関わる議論と実施。
幼稚園、保育園、小学校、地区青少協、教育委員会、行政(児童福祉関係部門)、UR

(5) **コミュニティ食堂・ミニ野菜工場WG** UR都市機構、東京大学、行政で事業者公募の検討。



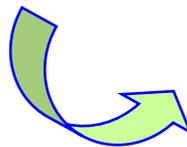
柏市役所が事務局を担う

12. いま望まれるセカンドライフの支援システム

65歳で定年となったら、培ってきた経験・能力を活かせる形で、地域で活躍する、貢献することが当たり前の社会を構築すべき。そのための体制整備が必要である



右記組織に登録
円滑な移行
キャリア継続、転換



リタイアした後は地域に戻って
貢献することを前提とした社会
風土・システムの醸成

セカンドライフ支援組織(仮称)
(≒セカンドライフファクトリー
シルバー人材センター・民間企業他?)

新設



いずれは誰もが地域(自宅)
を中心とした生活となる



○高齢者の「セカンド
ライフ就労」(生きがい
就労を含)をナビ
ゲート
—高齢者にとっての
多様な選択肢を提供する

○地域の課題解決に
民間等を積極的に活
用する



(地域=身近な日常生活圏域)

<支援組織の機能>

- ① 地域課題の把握
- ② 地域資源の把握
—リタイア高齢者の積極的な把握
- ④ 高齢者の就労能力評価
方法の開発と保有
- ⑤ 高齢者活用・活躍モデルの
開発と保有
- ⑥ 地域の事業者に対する啓発
活動と雇用の場拡大を推進
- ⑦ 地域住民に対する啓発活
動とマッチングの推進 他

13. 就労セミナー修了者による社団設立

<名称> **セカンドライフファクトリー** (S・L・F)

557名のうち、350名が社団法人を設立して参加。
様々な活動をはじめ、毎月新規加入者が増えている

平成25年4月1日設立

連携・協力



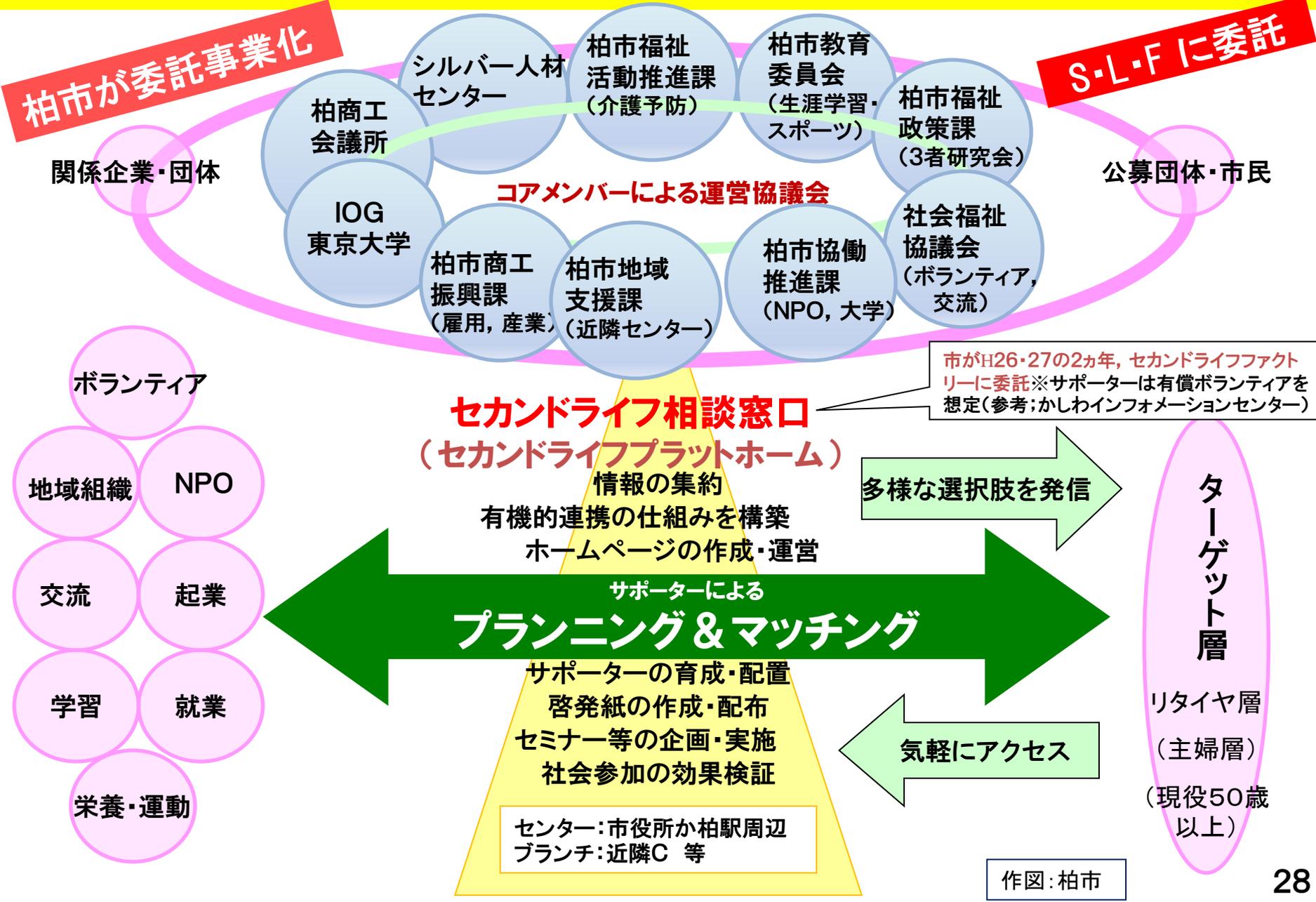
- ①グループ活動
- ②プロジェクト設置
- ③研修・セミナー事業
- ④委託受託事業



- ・請負事業の受託
- ・優良職業紹介事業
- ・**ジョブ・コーディネーターの配置**
- ・セカンドライフ応援窓口との連携

柏市シルバー人材センター

14. セカンドライフ・プラットフォームの設置



柏市が委託事業化

S・L・Fに委託

コアメンバーによる運営協議会

セカンドライフ相談窓口
(セカンドライフプラットホーム)

市がH26・27の2ヵ年、セカンドライフファクトリーに委託※サポーターは有償ボランティアを想定(参考:かしまインフォメーションセンター)

- ボランティア
- 地域組織
- NPO
- 交流
- 起業
- 学習
- 就業
- 栄養・運動

プランニング&マッチング

サポーターによる
サポーターの育成・配置
啓発紙の作成・配布
セミナー等の企画・実施
社会参加の効果検証

センター: 市役所か柏駅周辺
ランチ: 近隣C 等

多様な選択肢を発信

気軽にアクセス

ターゲット層
リタイヤ層
(主婦層)
(現役50歳以上)

作図: 柏市

15. 市庁舎内に窓口を設置

6人のコーディネーターが情報提供

仕事や活動を始めたい—そんなあなたのために

—「セカンドライフ相談窓口」を開設—

平成26年11月4日(火)より市役所ホールに「セカンドライフ相談窓口」を開設します

窓口時間 9:00~16:00 (平日のみ)

あなたがやりたい活動の情報を探そう手伝いや、これまで培った人生の棚卸のお手伝いをいたします。

—セカンドライフ応援事業とは?—

定年退職前の50歳以上の方や定年退職した方、子育てが一段落した方を対象に、求人情報や、ボランティア、趣味、学習活動、健康づくり活動などの募集情報を提供します。



ただけです。セカンドライフ応援セミナーなどのセミナー・講演会の情報も見ることができます。また、会員登録ページから会員登録し、あなたのやりたいことやできることを情報登録しておく、あなたに合った情報を入手できます。



—「セカンドライフ応援セミナー」を開催—

仕事・ボランティアをしたい人たち向けのセミナー、趣味・学習・健康づくり活動向けのセミナーを開催し、情報収集と仲間づくりの支援をいたします。ホームページより申込みができます。

I. 就労・ボランティア応援セミナー II. 趣味・学習・健康づくり応援セミナー

平成26年11月—北部地域(東大柏キャンパス)

平成27年5月—沼南地域 8月—南部地域

11月—中央地域I

平成28年2月—中央地域II

- ・健康づくりに関心がある方
- ・地域の趣味グループに参加してみたい方
- ・ボランティア活動をしてみたい方
- ・自分の技術や特技を生かしたい方
- ・自分のライフスタイルに合わせて働いてみたい方

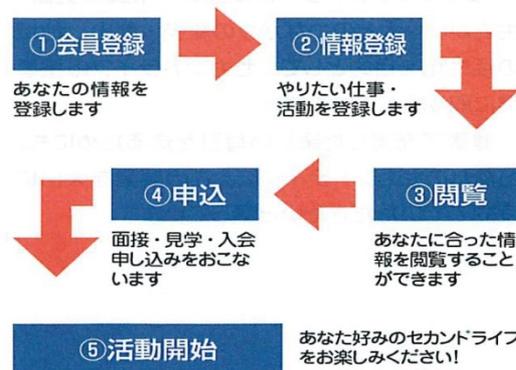
ホームページよりお申し込みください。

柏セカンドライフ応援サイト

 <http://kashiwa-secondlife.com>

パソコンが苦手な方は「セカンドライフ相談窓口」にお越し下さい。お待ちしております。

—あなたに合った情報探し—



16. 生涯現役促進地域連携事業「柏」モデル

【出口】高齢者が活躍できる場を徹底開拓

- 高齢者が求める仕事（活躍の場）があまりにも少ないのが現実である。この背景には、事業者側の高齢者就労に対する偏見、高齢者の活用方法がわからない・情報不足、また事業者側の開拓努力不足がある。
- 柏市では、これまでの開拓経験を踏まえながら、重点分野をはじめ、あらゆる領域での高齢者の活躍機会の開拓をはかる。
- 各事業における業務分析を通じた仕事の切り出し、新たな仕事の開発を行う。高齢者と事業者にとってWin-Winとなる仕事の開発を徹底的に行っていく。

《運営》理想的な協議会のモデルを確立

- 一般的に異なる関係機関が協働することは簡単ではないのが現実である。柏市では、これまでの連携体制を基盤に、協議会を構成する各組織がこれまで以上に綿密な連携をはかりながら、**真の有機的協働体制を確立する。**
- **高齢者と事業者の間に立つ協議会（中間支援組織）の理想的なあり方（役割分担、情報共有ルール等）のモデルを確立する**

【入口】理想のプログラムを確立

- 高齢者への動機付け、また新たな職能開発に向けて、これまでのプログラムをさらに改良し、**実効性かつ汎用性高い研修モデルを確立する**

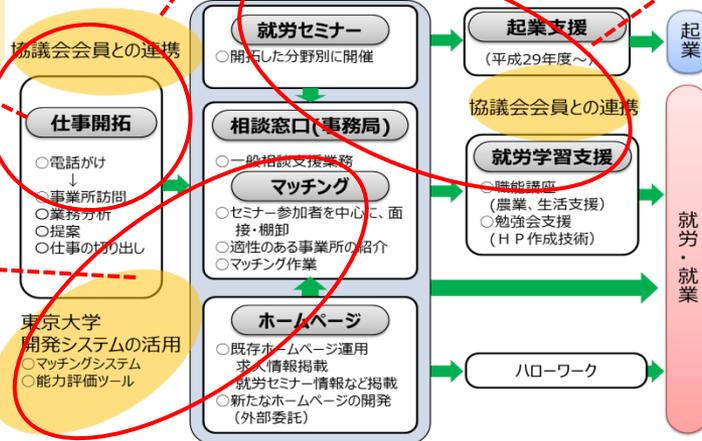


《最終GOAL～“柏から全国へ”》

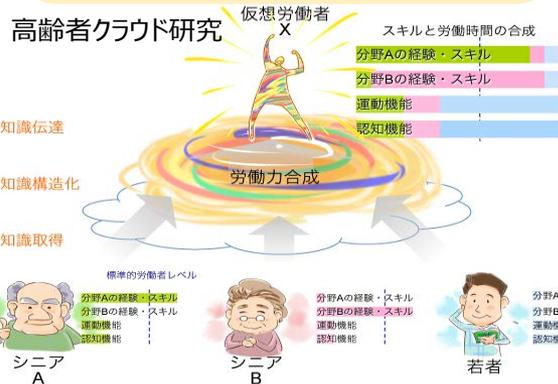
**生涯現役社会／一億総活躍社会
「高齢者」が「地域」を支える社会を実現！**

【マッチング】先端技術「知」の活用

- 高齢者の能力・特性に応じて適材適所に導くこと、また高齢者が働きやすい就業環境を整備していくことは社会技術開発の視点から懸案課題となっている。
- 柏市では、東京大学が進める上記課題解決に資する先端技術「知」を積極的に活用し、精度の高いマッチング及び理想的な高齢者への就業環境を提供する。

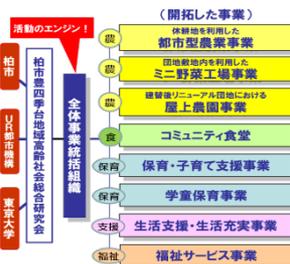


高齢者クラウド研究

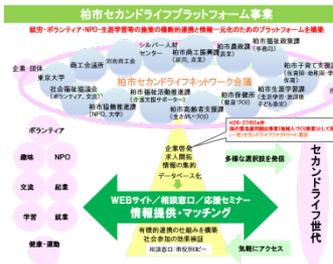


“7年間(H21-27)の実績⇒ノウハウの蓄積”

【生きがい就労事業】



【セカンドライフP F 事業】

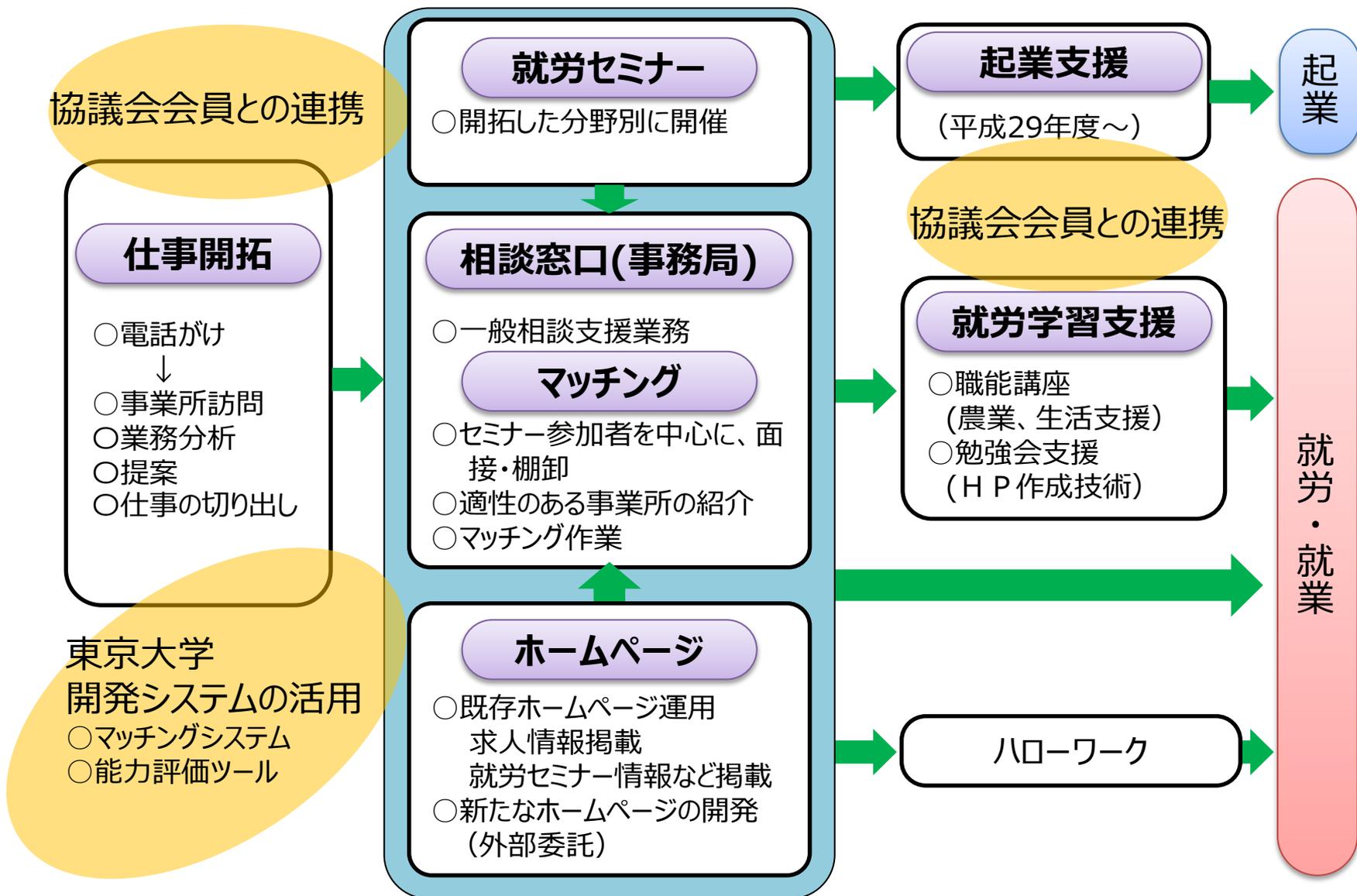


個人のセカンドライフ空洞化問題と地域の高齢化課題を同時に解決！

- | | |
|----------|-----------|
| (個人にとって) | (地域にとって) |
| 健康・予防 | 「地域力」の向上 |
| 生きがい | 地域経済活性化 |
| 新たな収入 | 医療福祉コスト削減 |
| 居場所・つながり | 包摂・孤立防止 |

17. 高齢者のニーズに合った就業支援事業

- 協議会の事務局（事業統括員、事業推進者、支援員）が主体となり、会員と連携し事業を実施
- 毎月1回、定例的に「運営委員会」を開催し、事業の進行管理を実施



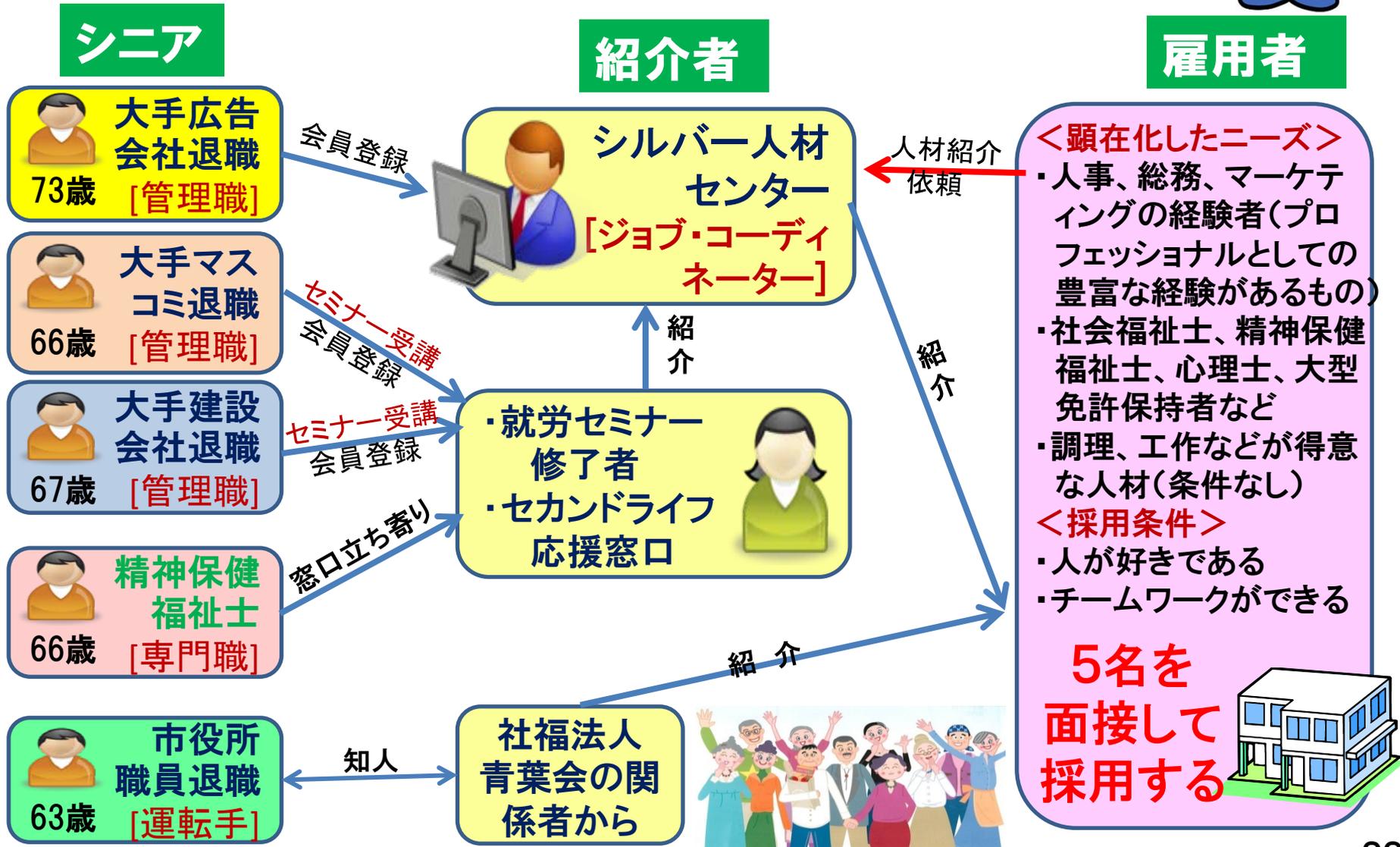
18. 高齢者ニーズによる新規及び重点就業分野の開拓

「生きがい就労事業」と「セカンドライフプラットフォーム事業」の経験から次の5分野を設定

重点分野	設定理由	雇用動向	課題（人材育成・確保）	対策方針
農業	○担い手不足 ○天候などに応じたフレキシブルな対応が必要（現役世代は困難）	求人数13 求職者数17 内60歳以上5 求人倍率0.76	○農業者と高年齢者の目的ギャップ ○高年齢者の適正・技術が不可欠	○就労セミナー 意識改革、適応支援 ○起業支援 ○雇用形態検討
子育て	○人材不足 ○専門職が忙しい時間帯（早朝、延長保育など）を高年齢者がカバー	求人数214 求職者数105 内60歳以上29 求人倍率2.04	○事業者の経営方針と高年齢者の子育て方針のギャップ ○年齢の若い保育士との協調	○就労セミナー 意識改革、適応支援
介護	○人材不足 ○専門職が忙しい時間帯（朝昼夕食）や裏方仕事（洗濯など）を高年齢者がカバー	求人数380 求職者数130 内60歳以上6 求人倍率2.92	○介護の仕事のイメージ向上 ○事業者の経営方針と高年齢者の介護・作業方針のギャップ ○対人関係能力の必要性	○就労セミナー 意識改革、適応支援
生活支援	○生活支援ニーズの増大が予測されているが体制が不十分 ○元気な高年齢者が支える側になることが必要	求人数56 求職者数32 内60歳以上1 求人倍率1.75	○生活支援サービスのイメージ向上 ○介護サービスの知識、対人関係能力の必要性	○就労セミナー 意識改革、適応支援 ○起業支援
中小零細企業の専門的支援	○専門知識・技術支援により事業の拡充が期待できる	—	○中小零細企業の専門的支援ニーズが顕在化していない ○中高年齢者自身の知識・技術が顕在化していない	○就労セミナー 意識改革、適応支援 ○起業支援

本事業では、重点分野に注力しつつも、同時に広く高年齢者の就業機会拡大の可能性を追求し、一人ひとりの高年齢者の経験・スキル、就業ニーズをきめ細かく汲み取りながら、それを活かせる道筋を拡げていく

19. 高齢者が障害者団体で就労する



20. そして「ソーシャルビジネス研究会」と 「就労企画室」を立ち上げて取り組む

4月第1回ソーシャル・ビジネス研究会

- ・ 理事長、施設長、メンバーによる今後の活動の検討

5月第2回ソーシャル・ビジネス研究会

- ・ 障害者施設の職場体験・見学会を経て感想や意見交換

6月第3回ソーシャル・ビジネス研究会

- ・ 障害者施設の理念に対する理解と共感が生まれる

7月第4回ソーシャル・ビジネス研究会

- ・ 3名でチームを組み意見交換（就労企画室の新設置）

8月第5回ソーシャル・ビジネス研究会

- ・ 柏市における高齢者就労の現状について学習

9月第6回ソーシャル・ビジネス研究会

- ・ 定年前の経験や技術を現場で生かす取り組み

毎月1回

定例会議を開催

研究会メンバー
12名

- ・ 就労シニア 3名
- ・ 理事長
- ・ 副理事長 2名
- ・ 理事施設長 2名
- ・ ジョブコーディネーター 2名
- ・ 東京大学
- ・ 法人事務局



21. 就労企画室の役割と今後の取組み

1. 経営分析を進める

- ① 青葉会の就労関係事業所
- ② いわゆる福祉業界の経営
- ③ 経営戦略の構築

2. 福祉的就労型支援業務を行う

- ① 地域に密着したイベント、祭り、などに出店し商品を販売
- ② 地域の介護老人施設の除草、掃除などの仕事を新規受託
- ③ 新製品の開発で多方面の事業所を見学し、青葉会に合った物を制作
- ④ 新規事業の立ち上げを検討

2. 企業就労型支援業務を行う

- ① 企業訪問活動（採用、実習、見学、販売）
- ② 利用者のトレーニングに参加

9月からの実績

- ・企業を40社訪問し受注につなげる
- ・商品販売は昨年実績を数か月で上回る
- ・地域イベントで共に商品販売

3. 今後の業務展開

- ① 営業のスタンスを短期、中期、長期に分け展開する
- ② 商品販拡については、今後は専門組織として販売チームの分離
- ③ 新製品開発、新規事業も含めて企画室の充実を図る